

スクールソーシャルワーク論

[講義] 第3学年 前期 選択 S S W必修 2単位

《担当者名》福間 麻紀 m-fukuma@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

今日の深刻化する教育現場が抱える課題や子どもたちを取り巻く問題状況の解決に、スクールソーシャルワーカーを導入する意義を学ぶ。また子どもの最善の利益と教育保障に貢献するスクールソーシャルワーカーの実践理論と支援方法を学ぶ。

【学修目標】

1. 教育現場にソーシャルワークが導入された背景、意義を理解し、教育と福祉の連携の必要性を考察することができる。
2. 子どもや家庭を取り巻く問題状況やニーズ、支援課題について、ミクロ・メゾ・マクロの視点からとらえることができる。
3. スクールソーシャルワークの目的や価値に基づいた、具体的な支援方法を考えて述べるができる。
4. 社会資源の活用・開発、多職種連携について、事例を用いて実践的な方法を説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	わが国のスクールソーシャルワーカー導入の背景と意義	スクールソーシャルワーカーの概要を説明できる。 今日の学校教育現場が抱える課題と実態について列挙できる。 スクールソーシャルワークに関連する国の施策・法律について理解する。	福間
2	子どもを取り巻く環境（学校・家庭・地域）の理解	不登校や高校における中退問題の概要を説明できる。 不登校に関する法令や制度の変遷、支援方法を理解する。	福間
3	子どもを取り巻く環境（学校・家庭・地域）の理解	いじめ、暴力行為の概要を説明できる。 いじめの定義や関連する制度の変遷、支援方法を理解する。 学校と家庭の協働によるいじめの対応について検討する（グループワーク）。	福間
4	子どもを取り巻く環境（学校・家庭・地域）の理解	児童虐待、特別支援教育の概要を説明できる。 ヤングケアラーに関する政策動向と支援の実際を理解する。	福間
5	スクールソーシャルワークの目的と価値・倫理	スクールソーシャルワークの目的と価値・倫理について説明できる。 子どもの人権について説明できる。	福間
6	スクールソーシャルワークの発展過程	アメリカや諸外国及び日本におけるスクールソーシャルワークの歴史的発展経過を概説できる。 現在の諸外国のスクールソーシャルワーカーの役割と活動を学び、日本のソーシャルワークの現状と比較できる。	福間
7	スクールソーシャルワークの実践1	スクールソーシャルワーカーの実践と関係機関との連携について理解する。（課題1）	福間 栗田郁子（特別講師）
8	学校教育現場の仕組みと教師の職務	学校の仕組み・教師の職務を理解し、教師とスクールソーシャルワーカーの接点と協働への取り組みについて理解する。	福間
9	スクールソーシャルワークの支援方法（ミクロレベル）	個別支援と集団支援に必要な視点について理解する。 実践例を用いて、具体的な支援方法を学ぶ（不登校、発達障害）。	福間
10	スクールソーシャルワークの実践2	活動の場である学校についての理解を深め、学校との協働によるスクールソーシャルワークの実践を理解する。（課題2）	福間 古原祥子（特別講師）
11	スクールソーシャルワークの支援方法（メゾレベル）	スクールソーシャルワーカーの校内支援について理解する。	福間

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関係機関を含む社会資源の特徴と役割を説明できる。 ケース会議の実際について理解する（動画視聴）	
12	スクールソーシャルワークの支援方法（マクロレベル）	ミクロ・メゾ・マクロの視点を用いた子どもと取り巻く環境を理解する。 子どもの貧困に対する学校・地域の社会資源・アプローチを学ぶ（グループワーク）。	福間
13	スクールソーシャルワークの実践3	非行・発達障害・児童虐待に対するスクールソーシャルワークの実践を理解する。（課題3）。	福間 梶原敦（特別講師）
14	スクールソーシャルワークの実践モデル	スクールソーシャルワークの実践過程と実践モデル（システム理論、生態学的視点、ストレンクス視点、エンパワメント視点）を概説できる。	福間
15	スーパービジョンまとめ	スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョン体制と方法について学ぶ。 スクールソーシャルワークの今後の課題と展望を理解する。	福間

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題1～3（30%） 最終レポート（70%）

【教科書】

使用しない。教員が作成するレジユメに従って学習する。参考文献等については、その都度、紹介する。

【参考書】

日本学校ソーシャルワーク学会編「スクールソーシャルワーク養成テキスト」中央法規（2008）

【備考】

教職課程では「大学が独自に設定する科目」に該当する。スクールソーシャルワーク教育課程では専門科目群「スクール(学校)ソーシャルワーク論」に該当する。

【学修の準備】

- ・予習として、スクールソーシャルワークに関連する報道について日頃より関心をもってチェックし、報道に対する自らの見解を持つように努めること。また、次回の授業テーマに関する、教員が指示した内容について事前に調べてくること。（80分）
- ・授業後は要点を整理し、分からない点は自分で調べるとともに、次回の授業までに担当教員に確認すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,1,4

【実務経験】

社会福祉士

【実務経験を活かした教育内容】

スクールソーシャルワーカーとしての実務経験を活かし、貧困、児童虐待、不登校、いじめ、非行などの子どもを取り巻く状況が複雑化・深刻化している現状において、学校や専門機関と協働して問題解決に取り組む上で求められる理念と知識、方法、その他具体的な実践について講義する。